

「化学と教育」編集委員会から

1 編集委員会の新体制

3月から「化学と教育」誌の編集委員会が編成替えされました。昨年度から継続委員16名に新たに13名の委員が加わり新しい体制で編集に臨むこととなります。

委員長も2年間担当していただいた小坂田耕太郎編集委員長から下井にバトンタッチ致しました。小坂田先生には原稿執筆のためのテンプレートの導入を図っていただき、B5判からA4判への切り替えに伴う財政的負担などの軽減にご尽力頂きました。また化教誌50周年の企画などにご尽力を頂きました。

本誌の内容は編集委員会が企画して執筆者に原稿を依頼する部分、投稿原稿に基づく部分、化学会および化学教育協議会からのお知らせなどの三つの部分から成り立っています。

2 企画記事

ヘッドラインと称する特集、講座、レーダー、実験虎の巻などの、編集委員会が企画して執筆者に原稿を依頼する部分については、会員に新しい内容をいかに届けたいか、編集委員会としても最も心を砕いている部分です。委員長として、化教誌を「化学の学習のモチベーションを高めるために役立つ雑誌」として位置づけたいと考えております。

そのために化教誌として今後、以下の3点に主眼をおいていくつもりです。

1. 化学の重要性、特に我々の生活にどのように役立っているか、他の分野とどのように深くかかわっているかについての情報を提供する。
2. 化学そのものがどんなに面白いかを伝える。
3. 学習によって“分かる”ということは、生徒のモチベーションを高めることにつながる。そのような学習の手助けをする。

化教誌は、上記のような観点に立って、現場の教員に最新の情報を提供することにより、少しでも多くの生徒、学生たちに効果的な教育をもたらすために役立つ記事を満載した雑誌を目指したいと思います。

従来から、化教誌の特集、講座は手堅い内容をお伝えしてきましたが、わかりやすさという点で、色々問題があるというご不満も、ときどき聴かれます。特に依頼原稿については、これまで以上に丁寧な査読体制を組み、専門外の読者層にも読みやすい原稿にしていく所存です。

新しい試みとして、これまでに化学教育賞、有功賞を受賞された先生が発表していた実験などの論文、記事を集める特集を随時組んでいきます。特に、地域と密着した活動がありますので、支部協議会中心にまとめて頂きます。先生方の教育哲学が伝わる特集になると存じます。

3 投稿原稿

化学関係の商業誌と大きく違うことは、化学教育関係の研究論文、ノートをはじめ、授業に役立つ内容について、投稿原稿を募集している点です。化教誌を受け取るだけでなく、会員の成果を発表する場、発信の場として大いに活用していただきたいと存じます。論文、ノート、私のくふう、フォーラムなどが投稿原稿の場ではありますが、これらの範疇に入らない寄稿にも柔軟に対応していきます。

4 日本化学会 125 周年を記念して

本年は日本化学会創立125周年にあたり、化教誌でも1年間にわたり、125周年の特集を組んでいきます。7月からは山本明夫先生による“日本の化学の歴史”が始まり、さらに芝哲夫先生による化学史が続く予定です。また昨年白川先生のインタビューに引き続き、ノーベル賞受賞者レーン教授とのインタビューも、秋に掲載されます。これは特に若い世代向けのインタビューであり、生徒のみなさんにも是非読んでいただけるようお願いしたいと思います。

5 会員増強にご協力を

現在、個人で本誌を購読されておられる方は3200人余りです。そのうち高等学校の教員が約2000人、大学の教員が650人という統計結果が出ております。3分の2が高等学校教員ということになります。必然的に、化教誌では中等教育を中心に展開していきますが、化学教育に関することは、初等教育から大学、大学院教育までも対象になります。昨年からは学生会員に対する特別割引制度が始まりました。また、定番化学実験は高等学校編をひとまず終了して、小中学校編が本年3号から始まりました。

化教誌をさらに充実させていくためには、購読者数の増強が不可欠になります。お近くに非会員の先生がおられる場合には、是非とも本誌の購読をおすすめ頂くようお願いいたします。

本誌に対するご意見、ご希望をお聞かせ下さい。

下井 守 (東京大学大学院総合文化研究科)
化学教育協議会「化学と教育」編集委員長